

東北労災病院診療科案内

(2023年10月現在)

消化器内科

消化器内科部長 小林 智夫

部長・消化器内視鏡センター長 大矢内 幹／部長 山川 暢、小島 康弘、白木 学

副部長 齋藤 晃弘、近藤 穰、半田 朋子

医師 玉淵 泰史、齋藤 紘樹、田中 裕、今成 賢士郎、佐藤 拓、菅原 優里、伊藤 圭祐、渡部 康也、
河野 雄一、相田 光太

【特色】

平素より地域医療連携登録医の先生方、施設の皆様には当科に患者さんをご紹介いただきましてありがとうございます。幅広くより多くの患者さんの診療ができるように、2023年4月に胃腸内科と肝臓科は統合して消化器内科となりました。当科にご紹介いただきました患者さんは、診断後に各専門担当医が診療を担当致します。当科の各専門領域をご紹介します。

上部消化管領域では内視鏡検査による疾患の診断を通じて、上部消化管の良性・悪性疾患や他疾患の合併症の治療を多数施行しております。**内視鏡による悪性腫瘍治療**は、練度の高い専門医が安全性に留意しながら施行しています。**手術適応の場合には消化器外科と密に連携**して治療を進めています。

下部消化管領域でも同様に内視鏡検査を通じて良性・悪性疾患の別なく診断・治療を行っております。**炎症性腸疾患(IBD)センター**では内科と外科が連携して診療しています。当科の**炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療導入数は宮城県内でも有数**です。感染症などの副作用管理が必要な高度の専門性を要する治療を経験豊富な専門医が行っています。

肝臓領域では、抗ウイルス薬の進歩でB型・C型肝炎患者さんの病状進行抑制・治癒が確立しました。飲酒・肥満等による代謝性肝疾患が増加しており、**肝生検**で診断して治療を行っています。各肝疾患を背景とした肝硬変では現在でも肝癌発症の危険性が高く、**ラジオ波焼灼術・肝動脈塞栓術・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬**で治療しています。

胆膵領域は2023年4月から専門担当医が代わりました。現在までの**内視鏡による胆嚢・総胆管結石・胆膵系悪性腫瘍による閉塞性黄疸に対する減黄処置に加えて超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)**による診断も積極的に行う体制になります。良性・悪性を問わず、診断・治療の選択肢を拡げた診療が可能となります。

登録医の先生方・登録施設の皆様からご紹介いただきました患者さんには、上記のような専門性をもって診療に努めますので、今後とも当科へのご支援を宜しくお願い致します。

【主な疾患】

- 上部消化管：食道炎、食道癌、消化性潰瘍、胃癌、胃炎 等
- 下部消化管：クローン病、潰瘍性大腸炎、虚血性腸炎、大腸癌 等
- 肝胆膵疾患：肝炎（急性、慢性）、肝癌、胆石症、胆のう炎、胆道癌、膵炎、膵癌 等

【診療実績】

	2021年	2022年		2021年	2022年
上部消化管内視鏡	6,917	6,424	内視鏡的止血術（上部）	96	84
下部消化管内視鏡	3,074	2,956	内視鏡的粘膜切除術（上部）	8	12
膵胆道系内視鏡	103	102	上部ESD	126	113
計	10,094	9,482	下部ESD	28	41
			内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術	21	13
			内視鏡的胃瘻造設術	31	34
			内視鏡的大腸ポリープ切除術	381	344

【特殊治療】

内視鏡止血、内視鏡的異物除去（魚骨、義歯、PTP など）、食道静脈瘤硬化療法/結紮術、内視鏡的食道胃粘膜切除術（EMR）内視鏡的胃粘膜下層剥離術（ESD）、内視鏡的大腸ポリープ切除術、内視鏡的胃瘻造設術などエタノール局注療法、経皮的ラジオ波熱凝固療法、肝動脈塞栓術、肝生検、経皮的胆道ドレーン、内視鏡的総胆管結石除去術等

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、**消化器内科外来(022-275-1111(代)から消化器内科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡**ください。新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、**診療情報提供書の他検査結果等もご添付**いただきたく存じます。

呼吸器内科

副院長・呼吸器内科部長・呼吸器疾患センター長 三浦 元彦

部長 榊原 智博

副部長 田代 祐介、中村 優、大塚 竜也

医師 谷津 年保、阿部 武士、鳴海 茜、大友 梓、池田 大輝

【特色】

現在呼吸器内科にはスタッフ7名が在籍しており、日々の診療にあたっています。平日夜間、休日対応に関してもスタッフによる当番制としており、当直医と協力して可能な限り診察を行っています。

呼吸器内科として対応可能な疾患は肺炎や気管支喘息、COPD など患者数が多い一般的な疾患から、肺癌、間質性肺炎、気胸など専門的な検査、治療を要する疾患、また労災病院として塵肺やアスベスト関連疾患など職業に関連した疾患まで、呼吸器疾患のほぼ全てに対応して診療しています。またここ3年間は新型コロナウイルス感染患者の入院診療にもあたっております。

外来を受診する患者さんの主訴として多いのは、長く続く咳嗽、喀痰の他、呼吸困難などです。また症状がなく検診などで胸部異常陰影、胸水などを指摘され紹介される患者さんも数多くいます。それらの患者さんを診断するための検査として特に重要なのは画像検査(胸部単純写真、胸部 CT)、呼吸機能検査、気管支鏡検査です。外来では画像検査、呼吸機能検査を主に行っており、特に呼吸機能検査は気管支喘息やCOPD の診断に欠かせません。通常の呼吸機能検査に加えて気道可逆性試験、呼気 NO 検査、気道過敏性試験も行っており気管支喘息、COPD 確定診断のための一助となっています。気管支鏡検査は主に肺癌診断のために入院で行っていますが、EBUS-GS、EBUS-TBNA、バーチャル気管支鏡など肺癌診断率向上のために新しい技術を導入し、さらに実際の検査時には鎮静剤をルーティンで使用して、患者さんの苦痛軽減にも努めています。また原因不明の胸水精査のための胸腔鏡検査による胸膜生検も行っています。

現在の呼吸器疾患の診療においては、他科との連携が非常に重要となっています。特に肺癌の治療に関しては呼吸器内科だけでは適切な医療は提供できず、呼吸器外科、放射線治療科、緩和ケア内科、病理診断科などの各科と協力して診療を行っています。各科との協力により肺癌の診断から手術、放射線治療、化学療法、緩和医療(疼痛コントロールなど)まで当院で適切な肺癌治療が一貫して行えるようになっています。

このように多種多様な呼吸器疾患に対応していますが、呼吸器疾患は急を要する場合があります。急を要する紹介の際には、電話などでご一報いただければ、できる限り当日対応しています。余裕がある場合は紹介状をご用意いただき、平日午前の外来に紹介いただければと存じます。呼吸器疾患が疑われる場合には是非呼吸器内科にご紹介ください。

【主な疾患】

肺炎、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、気胸、塵肺、アスベスト関連疾患

【特殊治療】

気管支サーモプラスティ治療

【診療実績】

	気管支鏡検査件数	局所麻酔下 胸腔鏡検査数	新規肺癌診断数
2014年	157	6	81
2015年	180	9	91
2016年	168	6	69
2017年	210	7	87
2018年	196	9	98
2019年	141	10	82
2020年	146	10	87
2021年	133	4	88
2022年	120	1	81

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、**呼吸器内科外来(022-275-1111(代)から呼吸器内科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡**ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

循環器内科

循環器内科部長 田中 光昭

副部長 高橋 貴久代、宇塚 裕紀

【特色】

当科では、**循環器疾患全般(急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動や完全房室ブロックなどの不整脈)**に対応しています。

高齢化社会とともに心不全患者が増加しています。心不全は、心機能が低下した心不全(HFrEF ヘフレフ)と心機能が保たれた心不全(HFpEF ヘフペフ)に大別されます。ヘフレフには以前から予後改善を示した基本薬(ACE 阻害剤/ARB・ β 遮断薬・ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬)がありましたが、最近は新たな心不全薬として、サクビトリルバルサルタン・SGLT2 阻害薬・ベルイシグアトが登場し、治療が充実してきています。一方、ヘフペフには予後改善を示した治療薬が従来 1 つもなく、ガイドラインでは利尿薬などが対症的に推奨されています。しかし、2021 年に SGLT2 阻害薬が初めてヘフペフの予後を改善したと報告され、本邦でも保険承認されたばかりです。

また、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)や僧帽弁逆流に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)が登場し、弁膜症に対する治療の適応が拡大しています。

このように近年の心不全治療の進歩は目覚ましく、患者ひとりひとりの病態にあった適切な治療法の選択が必要です。当科では、**増悪している心不全患者の急性期治療**だけでなく、漫然とクスリを飲み続けている**慢性心不全患者の現状評価とクスリの再評価**も行いますので、受診をおすすめ頂けると幸いです。

胸部症状を訴えるなど緊急性の高い患者さん(急性冠症候群・急性心不全・高度徐脈など)は、循環器内科外来あるいは当科医師に直接ご連絡ください。緊急性のない方は、地域医療連携センターを介して予約をして頂けるとスムーズです。お待たせしないように最大限努めますので、ご紹介のほどよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

循環器疾患全般(急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動や完全房室ブロックなどの不整脈)

【診療実績】

	2021年	2022年
心カテ総数	167	109
P C I 症例数	45	31
緊急冠動脈造影検査	18	17
緊急 P C I 例	15	14
ペースメーカー植え込み	23	35
下大静脈フィルター	3	3
心エコー	3,242	3,217
運動負荷試験（CPX含む）	583	503
心臓核医学検査	42	36
心臓・冠動脈C T	48	40

PCI:経皮的冠動脈インターベンション

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、**循環器内科外来(022-275-1111(代)から循環器内科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡**ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長・糖尿病代謝センター長 鴫田 藍

医師 中村 麻里、熊谷 絵里、鈴木 令子、亀井 利明

【特色】

糖尿病専門医 3 名が在籍しており、レスパイト入院、緊急入院にも対応いたします。入院が難しい患者さんには外来で精査、治療を行います。入院を患者さんが迷っていらっしゃる場合などには、患者さんやご家族様と相談の上治療方針を決定いたしますのでご安心ください。

近年経口血糖降下薬、注射製剤、インスリンポンプや、血糖測定機器の進歩もめざましく最新医療に対応すべく病棟・外来スタッフにも研修を行い、診療スキルを常にアップデートしております。また**免疫チェックポイント阻害薬使用に関連した糖尿病や副腎不全の症例**にも対応いたします。他科診療中の血糖管理や周術期管理などにも対応しますので**糖尿病をお持ちの他疾患患者さんが当院にご紹介となった場合には糖尿病管理もあわせて行える**ことが当院の強味です。糖代謝は代謝維持にとって最重要であり、数々の疾患の予後にかかわってきます。患者さんにご家族様のためお役に立ちたいと考えております。大半の糖尿病患者さんは慢性の経過をたどります。過去のデータが今後の治療に大きく影響します。

そのため当科への初診に際しましては、医療機関や検診センターからの紹介状を持参いただくか、もしくは事前に地域医療連携センター宛に FAX か郵送をいただくようお願いしております。ご紹介いただく先生方には大変なお手間をおかけしますが、ご理解ご協力を頂けますと幸いです。

【主な疾患】

糖代謝一般(低血糖含む)、シックデイ対応、急性合併症(低血糖昏睡、糖尿病性ケトアシドーシスなど)、術前～周術期血糖管理、外来インスリン導入、インスリンポンプ導入・管理など、肥満症(非糖尿病含む)

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。**予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

高血圧内科

高血圧内科部長 宗像 正徳、金野 敏

【特色】

2023年4月より**高血圧内科の連携紹介枠が拡大**されました。これまで院外からの新患紹介は毎週水曜日のみとなっておりましたが、予約が集中して待ち時間が長くなってしまったり、仕事や家庭の事情で水曜日に来院が難しいなど色々とお不便をお掛けすることがあったかと思えます。今後は基本的に**月曜から金曜までの平日は毎日新患予約枠**を設けてこれまでより迅速に紹介患者さんを診察させて頂く体制となりますので、**二次性高血圧が疑われるケースや血圧コントロールが困難**な患者さんがおられましたら是非とも地域医療連携センターを介して事前にご予約頂きますようお願い申し上げます。

当科では**肥満高血圧患者の減量入院**についても引き続き受け入れを実施しておりますので、自力での減量が困難な方や術前の減量・血圧コントロールが必要な患者さんについても地域医療連携センター経由で一度ご紹介を頂ければ幸いです。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

腫瘍内科 完全予約制

腫瘍内科部長 森川 直人

【特色】

当院腫瘍内科は、**消化器がん、乳癌を中心に周術期治療から進行・再発、終末期ケアまで幅広い診療**を行なっています。また悪性リンパ腫についても東北大学病院血液内科医師にご指導いただきながら化学療法を行なっております。「地域に根ざした General medical oncologist」として、専門性をもちつつ幅広い腫瘍に対応できる診療科を目指しています。近年では東北大学病院と連携して、**がんゲノム医療も積極的にすすめており**、地域の患者さんの高度医療への入り口として機能できるようになりつつあります。

この 1 年では、地域の先生方より骨転移やリンパ節転移で見つかった原発不明がんの患者さんをご紹介いただく機会が増え、診断から治療に至るまで一貫して取り組んでいます。また、総合病院の強みを生かして、**免疫チェックポイント阻害剤など施設要件のある薬剤の投与**についてもご紹介をいただいています。一方で、退院後の往診管理や、定位放射線治療、脳神経の合併症など当科からご紹介するケースも増えており、「双方向性の地域連携」を目指して有機的な連携をすすめていく所存です。

他院からご紹介から受診まで平均 1 週間前後であり、迅速な対応を心がけております。引き続きご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

腎臓内科 完全予約制

腎臓内科副部長 神田 学

【特色】

平素より大変お世話になっております。

腎臓内科では**検尿異常や腎機能障害(急性/慢性)の精査・生活指導など幅広く腎疾患の診療**を行っております。また、慢性腎臓病の診療においてはスムーズに各種腎代替療法を行えるよう、患者さんへの丁寧な説明を心がけております。

透析領域においては、**外来透析の他、入院透析、自家静脈内シャント作製、腹膜透析外来**を行っております。**入院透析では透析新規導入、透析患者さんの合併症による入院の他、持続緩徐式血液濾過や血漿交換、吸着式血液浄化法など各種急性血液浄化療法**も行っております。また、介護者の疲労や入院に伴うレスパイト入院も 2 週間単位で受けております。

様々な疾患・病態に対し、各診療科と連携し診療にあたっております。

ベッド数が少ないことと、勤務体系から土曜日の透析が難しく火木土の透析を通常は行っていないことから入院透析の人数は限られてしまいますが、可能な限り受け入れをしておりますのでいつでも御相談ください。

【主な疾患】

腎機能障害(急性/慢性)

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

リウマチ科 完全予約制

リウマチ科部長 畠山 明／部長 加藤 一郎

医師 永井 泰地

【特色】

当科は常勤医 3 名により、約 1200 名の患者さんの診療を行っています。

疾患の内訳は、**半数強が関節リウマチで、残り半数弱がその他の膠原病・膠原病類縁疾患であり、全身性エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、多発性筋炎/皮膚筋炎、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛症、掌蹠膿疱症性骨関節症、血管炎症候群、成人スティル病、再発性多発軟骨炎**などとなっています。

これまで当科では、リウマチ膠原病全般の診療に当たらせていただいておりますが、常勤医の高齢化や体調面の問題に加え後任不足、働き方改革の影響、膠原病診療に必要な専門診療科の不足(血液内科や神経内科など)に対し求められる医療の高度化など、諸般の事情で、2019 年 4 月から関節リウマチ以外の膠原病の診療を縮小しておりました。逆紹介などもお願いして外来の負担軽減を試みましたが実際には実現できず待ち時間が長いなど問題は解決されておられません。4 月から常勤医が一人増えたことにより、2023 年は解消に向けて努めております。

関節リウマチに関しては、**関節 MRI、関節エコーを用いて早期診断**を心がけ、また、早期の臨床的、構造的寛解の達成を目標に、リスク評価を行った上で、**生物学的製剤・JAK 阻害剤を積極的に導入**しております。また、当院の整形外科とも連携し、最先端の医療を提供できるよう努力して参りたいと思います。

【主な疾患】

関節リウマチ

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。**予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

緩和ケア内科

緩和ケア内科部長 小笠原 鉄郎

医師 珠蘭 其其格

【特色】

当院は県内で最も早く「緩和ケアの提供」を始めた病院です。

政府は第4期 がん対策推進基本計画(2023年3月閣議決定)の全体目標を「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」としております。

緩和ケア領域での新たな目標は、①「がんと診断された時から」の緩和ケアの提供、②がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現すること、です。この目標達成のために当院では従来からの特長に加え、体制を以下のように強化いたしました。

①医師 2 名体制、②病床数倍増(差額ベッド代のない多床室も含む)、③外来、入院患者の苦痛のスクリーニングの徹底、④緩和ケアチームによる毎日の病棟回診、⑤外来患者の主科との同日並診、⑥看護外来での相談支援、⑦地域のクリニックのバックベッド機能、⑧介護する家族のためのレスパイト入院受け入れ、⑨音楽療法、⑩がんリハビリテーション を提供しております。

1)総合病院の中での緩和ケアの利点 ・病初期より終末期までの一貫した完結型のがん治療が可能 ・抗がん治療期より支持的治療に介入 ・がん患者の苦痛を、外来、入院とも、がん患者全員に苦痛のスクリーニングを行い、漏れのない拾い上げ ・週 5 日の外来を開いていることで主治療科との同日併診が可能 ・非がん患者(心不全、呼吸不全、腎不全)の緩和ケア

2)県内で最も強力な緩和ケアチーム活動 ・チームによるアドバンスケアプランニング支援 ・チーム(緩和ケア内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医、麻酔科医、心療内科医、認定看護師、専門薬剤師、公認心理師、管理栄養士、MSW、がん相談員、音楽療法士、ボランティア)の週 1 回のカンファレンスと 週 5 日の院内チーム回診

3)「ホスピス」「緩和ケア病棟」では得られない利点 ・「緩和ケア病棟」ほど厳しくない入棟条件 ・CART、輸血、中心静脈栄養など必要に応じて対処 ・在宅支援診療所との切れ目のない連携体制

4)プラスアルファのサービス ・特に乳がんが多いAYA世代の患者へのがん相談員によるサポート。音楽療法のサービス、ボランティアによる傾聴などの積極的患者支持システム

【ご紹介いただく際の留意事項】

入院面談、緩和ケア内科外来受診のいずれの予約は、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

心療内科 完全予約制

心療内科部長 町田 貴胤

副部長 町田 知美

【特色】

現在心療内科は医師 2 名体制で診療を行っております。

対象疾患は**心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能的消化管障害**など多岐にわたり、**検査で異常がない原因不明の身体症状、いわゆる Medically-Unexplained Symptom の診療**にも対応しています。病態が良く分からず何科に紹介すべきか迷うような症例などもぜひ御相談下さい。

また、入院治療も対象疾患の範囲で積極的に行っております。特に**摂食障害**については**年齢制限を設けず、BMI<10 のような最重症例から軽症例に対する教育入院まで幅広く対応**しております。

宮城県は摂食障害治療支援センター設置運営事業を行っており、東北大学病院を宮城県摂食障害支援拠点病院に指定しています。当科医師は支援拠点病院の非常勤医師として任命されており、治療支援事業に積極的に活動しています。

県内で心療内科の入院治療可能な施設は東北大学病院以外では当院のみであり、**県内外を問わず積極的に入院適応症例を受け入れ**ております。この診療案内をお読み頂いた先生方からの御紹介を、心よりお待ちしております。

【主な疾患】

心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能的消化管障害

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。**予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

総合診療科 完全予約制

総合診療科部長 小山 二郎

【特色】

人口の高齢化が進み疾病構成が大きく変化し、**お一人で複数のご病気を持っている方**、いわゆる**多疾患併存の方**がますます増えてきております。また、医療を取り巻く環境が大きく変わってきており、介護の比重が高まってきております。そのような患者さんたちを**全人的・包括的に診療していくことが総合診療科の役割**であり、使命であると考えます。その人の人生やご家族に寄り添い、その人の気持ちに共感しながら社会面や心理面からも診療する全人的なアプローチをしていきたいと考えております。介護・福祉を含めた保健活動など地域全体を見据えて患者さん中心の満足のいく診療を行っていきます。

【地域包括ケア病棟】

地域包括ケア病棟の常勤医師としても診療しております。レスパイト入院の必要なかたがございましたら、当パンフレット 45 ページもしくは当院ホームページをご参照いただき、「地域包括ケア病棟入院申込書」よりご紹介いただければ対応させていただきますのでお気軽にご相談ください。

[※ダウンロードはこちらから](#)



【主な疾患】

日常診療で、あまり自分に馴染みのない訴えだと不定愁訴と決めつけてしまいがちですが、実は身体疾患が隠れていることが多々あります。まずは患者さんおひとりお一人から、ゆっくり時間をかけてお話をうかがいたいと思います。

問診や身体診察で診断病名の可能性を検討し、必要な検査を行って診断に近づいていきます。そのうえで適切な診療科・施設への紹介など行います。

登録医の先生方をお願いですが、簡単でかまいませんので臨床経過、投薬歴など記載していただければたいへん助かります。診療経過や診断等につきましては追ってご連絡さしあげます。いずれは登録医の先生方と顔のみえる関係であるよう症例検討の場など開催できたらと考えております。何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、**診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

消化器外科

外科部長・消化器外科部長 成島 陽一

内視鏡外科部長・内視鏡下手術センター長 松村 直樹／肝胆膵外科部長・ヘルニア外科部長 野村 良平

外科部長 本山 一夫

外科副部長・救急科副部長 齋藤 匠

医師 金原 圭吾、佐藤 馨、榭間 貴晃

【特色】

はじめに当院連携の先生方には日頃から多くの患者さんをご紹介いただき、また多方面でたいへんお世話になっておりますこと、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

消化器外科・大腸肛門外科 2022 年の手術実績は 633 例で、**胃・大腸手術(主に悪性腫瘍)115 例、胆石などの胆道疾患 135 例、ヘルニア(118 例)などの良性疾患手術のほか肝切除術・胆膵悪性腫瘍手術 42 例、虫垂炎(40 例)・腸閉塞(24 例)**などの緊急疾患も多に行っています。**腹部手術の 6 割以上が腹腔鏡下で行われています。**創が小さく術後の回復にも優れている腹腔鏡下手術ですが、症例によっては極めて高度な技術を必要とすることがあります。当科では 1990 年代はじめにいち早く腹腔鏡下胆嚢摘出術に取り組み、以来**腹腔鏡下手術においては東北地方の先駆的施設**として、手術手技の向上・普及に努めてまいりました。

現在、医師8名、診療看護師1名の計9名のスタッフを、消化管(松村直樹、本山一夫)、肝胆膵・ヘルニア(成島陽一、野村良平)の 2 領域にそれぞれ**内視鏡外科技術認定医**をリーダーとして配するチーム制をとっています。これにより日常診療において様々な状況で迅速に対応できるなど、安心・安全な外科治療の実現を目指しています。また根治性と安全性を両立した手術レベルの維持・向上と、若手後進の育成に寄与するものと考えています。

手術治療を例にあげますと、**下部直腸癌**では、肛門機能の温存を図り通常の腹腔からの操作に加え肛門からもカメラと鉗子を挿入し直腸と直腸間膜を切除する**経肛門的直腸間膜切除術(TaTME)**を行っています。**腹腔鏡下肝切除術、一部の腹腔鏡下膵切除術も当科では保険診療で手術が行える施設認定**を受けています。**消化器悪性腫瘍**でも術前化学療法を治療戦略として位置づけられるようになり、当院腫瘍内科との緊密な連携のもと治療を行っています。**鼠経ヘルニア**では、患者さんの病状・状態を充分精査して、前方からアプローチする手術や腹腔鏡下手術など麻酔法方法も含め最良の手術方法を提供しています。また**食道裂孔ヘルニア手術**も患者さんの状態・状況を考慮した手術を行っています。

患者さんには安心して手術を受けられますよう、また連携医の先生方には安心して患者さんをご紹介いただけますよう、外科スタッフ一同誠心誠意努めてまいります。今後とも労災病院外科を宜しくお願い致します。

【主な疾患】

胆嚢結石症、総胆管結石症、急性胆嚢炎などの胆石症、胆道系悪性腫瘍、胆管癌、胆のう癌、十二指腸乳頭部癌、肝内結石症、膵臓癌、肝細胞癌、胆内胆管癌、転移性肝癌、胃癌、胃粘膜下腫瘍、大腸癌、そけいヘルニアなどの疾患などに対して、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下胃癌手術などの腹腔鏡下手術、消化器外科一般の手術そして外科の急性期医療。急性腹症特に消化管穿孔、急性虫垂炎、腸閉塞

【診療実績】

2022年	腹腔鏡下手術	開腹手術	その他手術	計
胆嚢結石など	135	0	－	135
(総胆管結石)	(38)	(0)	－	(38)
大腸癌	65	4	－	69
胃癌	22	3	－	25
肝癌（原発性+転移）	5	8	－	13
胆嚢癌	－	3	－	3
胆管癌	－	4	－	4
膵癌（IPMN含む）	1	7	－	8
炎症性腸疾患	10	6	42	58
ヘルニア	76	－	42	118
虫垂炎	39	1	－	40
その他	43	51	69	163
計	396	87	153	674

【ご紹介いただく際の留意事項】

鼠径ヘルニアについては、専用のお申込書に記載して地域医療連携センターに FAX をしてください。

(緊急の場合は当日および午後の診察可)

緊急性の高い患者さんの場合は、**消化器外科外来(022-275-1111(代)から消化器外科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡**ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

大腸肛門外科

大腸肛門外科部長・炎症性腸疾患(IBD)センター長 高橋 賢一

部長 羽根田 祥

【特色】

大腸肛門外科は、**炎症性腸疾患の外科治療**と**各種肛門疾患の外科治療**を二本柱として診療を行っています。炎症性腸疾患には**潰瘍性大腸炎**と**クローン病**があり、いずれの疾患も薬物など内科治療により炎症の落ち着いた状態、すなわち寛解状態に導入して、これを長く維持することが治療の原則となります。外科手術はこうした寛解導入や寛解維持が困難な場合に必要となり、潰瘍性大腸炎では疾患の根治と肛門温存の両立を図るための大腸全摘・回腸肛門吻合術が標準術式として行われます。またクローン病では狭窄や瘻孔など腸管合併症に対する腹部手術が行われ、また高率に合併する痔瘻など肛門部病変に対する肛門手術が行われます。

当院では大腸肛門外科と消化器内科の**IBD 専門医計 4 名**で**炎症性腸疾患(IBD)センター**を設立し、内科と外科の緊密な連携を図りながらこれら炎症性腸疾患の内科および外科治療を多く手がけています。当センターは厚生労働省の「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」班に分担研究者として参加し、全国多施設研究や新薬の治験に多く関わっており、**最新の治療を含めた IBD の専門的治療の提供が可能**となっています。また炎症性腸疾患では学業や就労など社会活動にかかわる若年の患者さんが多いという特徴がありますが、早期の社会復帰を果たせるように**低侵襲な腹腔鏡手術の積極的な実施**や、**適確な周術期感染対策の実施による術後合併症の予防**に努めています。加えて、**きめ細かな術後の復職支援**を行っていることも当院の特徴になります。

肛門疾患では、いぼ痔(痔核)や切れ痔(裂肛)痔瘻といった三大肛門疾患の手術に加え、直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術も多く手がけています。当院の特色としては、**肛門内圧測定や排便造影などの専門的な直腸肛門機能検査を行っていること**、**全身麻酔での手術も行えることから心疾患等で抗凝固薬内服中の患者さんの手術にも対応できる**ことが挙げられます。「たかが痔」と軽く捉えられがちな肛門疾患ですが、その背景に思わぬ悪性腫瘍や炎症性腸疾患が潜んでいる可能性もありますので、軟膏外用などの保存的治療にて肛門症状の改善しない患者さんはぜひ当科への紹介をご検討ください。

【主な疾患】

大腸癌、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、肛門疾患など

【診療実績】（年別手術件数）

	2019年	2020年	2021年	2022年
潰瘍性大腸炎	30	27	37	28
クローン病	36	32	40	35
痔核	20	19	17	18
痔ろう	24	21	18	23
裂肛	0	1	2	2
直腸脱	10	7	7	5
直腸腔瘻	0	1	1	0
直腸瘤	1	0	0	1
直腸肛門部腫瘍	13	13	10	10
その他	28	24	21	17
計	162	145	153	139

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患外来日は火曜日となりますが、内科治療抵抗性の炎症性腸疾患など症例の相談については随時対応可能ですので、気軽にご連絡をいただければ幸いです(022-275-1111(代)から大腸肛門外科科外来へ)。新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

乳腺外科

副院長・乳腺外科部長・乳腺センター長 本多 博

副部長 千年 大勝

【特色】

当院は**日本乳癌学会の認定施設**で、With コロナの中、登録医を始め多くの医療機関より患者さんのご紹介をいただき、2022年は年間200例近い手術(右表参照)並びに多くの治療を行うことができたことをこの場を借りて皆様に深謝申し上げます。

2021年4月より本多・千年大勝の医師2名に特定看護師(NP)の3名体制で、引き続き、仙台乳腺クリニック並びに乳腺専門医(木曜外来)にご協力いただいております。また、昨年7月より2階に移設した外来(2室専用)に患者さんも慣れてきたところです。

当科の乳がん診療の特色として以下の2点が挙げられます。

1)病理医3名(常勤2・非常勤:東北大医師)の強みを活かして、RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検(2mm 切片検索)と温存術切除断端(4方向)の迅速病理診断を行い、高い同定率と正確な診断で郭清省略とリンパ浮腫予防に加え、根治性を高めています。また、病理技師の協力もあり、針生検で約1週間・手術標本で約2週間で免疫染色を含む病理結果をお伝えしています。

2)乳腺センターとして、週1回、腫瘍内科・緩和ケア内科・放射線治療医、看護師(乳がん看護・がん化学療法看護・緩和ケア認定、入退院支援)、薬剤師に、両立(就労)支援コーディネーター2名を加え**多職種による乳腺カンファレンス**を行い、チーム医療で患者さんに最適な治療・支援を受けていただく体制を構築し、きめ細かい対応と情報共有並びに患者さんの社会復帰に努めております。また、術前・術後化学療法(特にdose dense治療)や免疫療法等は腫瘍内科、照射は放射線治療医、再発後のケアは緩和ケア内科と協同で対応しています。

乳房再建は東北大学形成外科と共同で行い、2019年からは**特別認定施設の認定を受け、二次再建等も可能**となりました。2018年より術前患者さん対象にHBOC(遺伝性乳がん卵巣がん症候群)のスクリーニング及び認定遺伝カウンセラー(非常勤:石巻赤十字病院)による**遺伝カウンセリング(月1回)**を行い、院内でBRACA検査等に対応しています。更に昨年12月よりソシオエステティシャンによる(化学療法に伴う)**アピランスケア外来(月1回、無料)**を立ち上げ、好評を博しております。リハビリ科・作業療法士(OT)による乳がん手術全例の術前・術後評価を含むがんリハビリ体制も確立し、体脂肪量(乳がんリスク因子)の減少を目的に管理栄養士による栄養管理・InBody測定を行い、チーム医療の輪を拡げております。

今後は、コロナ禍における、対面での患者サロン・患者会の復活やピアサポート対応およびAYA(世代)サポートチーム立ち上げが今後の課題と考えます。

【診療実績】（年別手術例数）

	（原 発乳がん うち 両側）	温 存 （率）	全 摘	（乳 房再 建 T E）	再 発 な ど 悪 性	良 性 そ の 他	計
2018年	117(1)	67(57%)	51	7	2	21	140
2019年	159(1)	80(50%)	80	6	9	19	187
2020年	142(0)	81(57%)	61	7	9	13	166
2021年	141(4)	84(58%)	61	4	4	25	170
2022年	171(4)	77(48%)	98	4	10	15	196

【ご紹介いただく際の留意事項】

受診には紹介が必要とさせていただき、新患の方は地域医療連携センターにてご予約可能で、急ぎの場合は枠を増やしてお待たせしないよう最大限努めております。

紹介状があれば、月木金午前に予約なしで受診可能とはしておりますが、予約優先にてお待ちいただくことをご容赦下さい。今後ともご紹介を何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経外科

脳神経外科部長 高橋 智子

【特色】

当科では、主に脳卒中や頭部外傷などの診断と治療を行っています。開頭術や血管内治療には対応できないため、発症からのタイミングや重症度によっては他院を紹介させていただくことがあります。ご相談いただければ適切な治療を受けていただけるように対応いたします。頭痛やめまいなど、脳の病気かもしれないと不安に思う症状がある場合にも、当科外来で検査を受けていただくことが可能です。

また2018年から、高齢者に多く発症する慢性硬膜下血腫に対する穿頭術を行えるようになりました。安全に治療できるよう、適応を十分に検討して対応しています。対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご紹介いただければ幸いです。

【主な疾患】

脳梗塞、脳出血、頭部外傷、慢性硬膜下血腫、一次性頭痛、てんかん、脳腫瘍など

【診療実績】

2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
9	15	19	10	8	8

【ご紹介いただく際の留意事項】

発症後数時間以内の、脳卒中の超急性期の患者さんは、一次脳卒中センターへの紹介を推奨します。当科にて緊急に診察をご希望の場合は、直接電話にてご連絡いただければ幸いです。受診予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

呼吸器外科

呼吸器外科部長 保坂 智子

【特色】

呼吸器外科は、常勤医は1人ですが、手術は東北大学病院呼吸器外科の医局のお力をお借りしながら行っています。

対象疾患は、呼吸器疾患全般であり、**原発性肺癌、転移性肺腫瘍、若年者から高齢者までの気胸、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸、間質性肺炎疑いの肺生検等の手術**を行っております。手術が中心ではありますが、その他、**外傷性多発肋骨骨折による血気胸**の診療も行っております。手術は、できるだけ低侵襲手術を心がけております。

原発性肺癌は、現在は9割が完全胸腔鏡下(3ヶ所の皮切(2、3、4cm))で手術を行っております。痛みも以前と比べてだいぶ軽減し早期に社会復帰ができております。またご紹介のおかげで年々原発性肺癌の手術件数は増加しております。

縦隔腫瘍は、前縦隔腫瘍に対しては、胸骨正中切開アプローチではなく、胸腔鏡下に炭酸ガスを送気し、人工気胸下で3ヶ所ないし4ヶ所の小切開で手術をし、後縦隔腫瘍も基本的には胸腔鏡下で手術を行っています。その結果早期退院ができております。

若年者の気胸は、2ヶ所、1.5cmほどの小切開での胸腔鏡下手術を行い、術後2~3病日には退院されています。

また、術後も術前と同様の生活ができるように、当院では呼吸リハビリテーションを積極的に取り入れております。入院当日~手術前日、術翌日~退院日まで理学療法士がマンツーマンで呼吸法、排痰法等の指導、筋肉が拘縮しないような運動を一緒に行っていただいております。患者さんからの評判もとても良いです。今後も患者さんに沿った治療を行いますので、様々な患者さんのご紹介を何卒宜しくお願い申し上げます。

【主な疾患】

呼吸器疾患全般(肺癌、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、自然気胸、肺嚢胞、急性膿胸など)

【ご紹介いただく際の留意事項】

外来は基本的に月曜日、金曜日ですが、緊急性の高い患者さんの場合は、**呼吸器外科外来(022-275-1111(代)から呼吸器外科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡**ください。速やかに対応させていただきます。

整形外科

院長 井樋 栄二

副院長・脊椎外科部長 日下部 隆／脊椎外科部長 松谷 重恒／外傷・関節外科部長 小河 裕明

関節外科部長・股関節センター長 千葉 大介／関節外科部長 奥野 洋史

関節外科副部長 國井 知典、品川 清嗣

医師 信田 進吾、小林 史怜、佐藤 佳衣、鈴木 優樹、正岡 隼

【特色】

当科における 2022 年度(2022 年 4 月～2023 年 3 月、整形外科医師 11 名)の年間手術件数は 1,766 件(全身麻酔:848 件)、年間新患数は 2,604 人、最大入院患者数は 116 人でした。2023 年 4 月からは 2 名増員となり、整形外科医師 13 名での診療体制となっています。

脊椎外科は日下部、松谷、専攻医の3名が担当し、**脊椎変性疾患、リウマチ性脊椎疾患、脊椎外傷ならびに脊髄腫瘍の手術**を行なっています。

関節外科は第一関節外科(千葉、國井、専攻医)、第二関節外科(奥野、品川、専攻医、井樋、信田)、外傷・関節外科(小河、専攻医)で、**各種人工関節置換術、肩関節・膝関節の関節鏡視下手術、リウマチ関節外科手術、末梢神経障害に対する神経剥離術・移行術、機能再建術、四肢の骨折・脱臼の治療**を行なっています。尚、四肢の切断・再接着は仙台医療センターに依頼し、悪性骨軟部腫瘍は東北大学病院へ紹介しております。脊椎・四肢の外傷、骨折はなるべく臨時で手術ができるよう尽力しておりますので、患者さんのご紹介をお願い申し上げます。

【診療実績】

- 上肢・下肢の骨折、腱断裂、神経断裂、脊椎の脱臼・骨折、脊髄損傷などの外傷
- 頰椎症性脊髄症、後縦靱帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍などの各種脊髄疾患
- 変形性股関節症、変形性膝関節症などに対する人工関節置換術や骨切り術、膝関節鏡による鏡視下手術
- 各種肩関節疾患の鏡視下手術、変形性肘関節症
- 末梢神経障害に対する神経剥離術、手根管開放術、麻痺に対する機能再建術
- 関節リウマチの関節変形や上位頰椎疾患などに対するリウマチ関節・脊椎手術

【脊椎外科】

脊椎外科の手術は、高位別では頰椎が約 28%(うち上位頰椎が約 5%)、胸椎が約 8%、腰仙椎が約 64%です。

疾患別では腰部脊柱管狭窄症が最も多く、次いで頰部脊髄症(含 後縦靱帯骨化症)、腰椎椎間板ヘルニアの順となっており、リウマチ頰椎病変(上位頰椎疾患)や Chiari 奇形などの頭蓋頰椎移行部病変、脊髄腫瘍(硬膜内腫瘍)といった特殊な疾患にも対応しております。

また、近年は脊椎内視鏡下手術も本格導入しており、患者さんのニーズに合わせた診療を心懸けております。

【関節外科】

2023 年度から、第一関節外科は下肢(股関節、膝関節)を中心に、第二関節外科は上肢(肩関節、肘関節、手・手関節)とリウマチ性疾患を中心に、外傷・関節外科は関節外科全般と外傷を中心に診療を行なっています。

また、新たに「股関節センター」を開設し、整形外科領域の手術支援ロボット「ROSA®(RObotic Surgical Assistant)」も導入しました。

【股関節センター】

**人工股関節手術及び人工膝関節手術をいち早く導入
早期治療、早期社会復帰をトータルサポート**

豊富な手術実績

当院の整形外科は、東北地区でいち早く人工股関節手術及び人工膝関節手術を導入した実績があります。

中でも人工関節置換術は、**2022 年度実績で股関節 138 件、膝関節 142 件**の実施件数を有しています(**2022 年度総人工関節置換術件数:280 件**)。

高度な設備と技術力でサポート

人工関節置換術は、軟骨の摩耗などによって悪くなった関節部分の骨を取り除いて、金属やポリエチレンなどの人工関節に置き換える治療法で、関節の痛みの原因をすべて取り除くため、手術後は痛みのない日常生活に戻ることが可能となります。

当院では、**人工関節を中心とした手術治療を効率よく効果的に提供するため、2023 年 7 月 1 日に「股関節センター」を開設しました。**

股関節センターでは、バイオクリーンルーム 2 室を完備した手術室や、骨の保存庫としての機能を持つボーンバンク、仙台市内でも最大級の広さと人員を誇るリハビリテーション室など、高度な設備と技術で早期治療、早期社会復帰をサポートしています。

一人一人のニーズに向き合い最適な治療方法を提供します

専門医による疾患(変形性関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死症、外傷性関節炎等)、患者年齢等に対応した人工関節手術、骨切り手術および保存治療の専門的かつ適切な医療の提供を行います。

患者さんごとに状態や症状は違います。治療の選択肢は様々あります。当センターでは患者さん一人一人の訴えにしっかり向き合い、その患者さんに最も良い治療法を考えていきます。

対象疾患は、**変形性股関節症、寛骨臼形成不全症、大腿骨頭壊死症、外傷など**になりますが、**乳幼児の股関節疾患**にも対応しています。股関節の辺りが痛いけどよく分からないということでも構いませんので、お気軽に「股関節センター」にご相談ください。

【手術支援ロボット】

手術支援ロボット「ROSA®」でより安全な手術を提供

「ダヴィンチ」の普及により、ロボット支援下の外科手術が一般的になりつつありますが、**当院では宮城県内のどの病院よりもいち早く人工関節手術支援ロボット「ROSA® (RObotic Surgical Assistant) 」を導入しました。**



この手術支援ロボット「ROSA®」は、変形性膝関節症や変形性股関節症の手術治療のひとつである人工膝・股関節置換術で使用されます。ROSA®によるサポートにより、骨切りの角度や人工関節の設置位置などを0.5°、0.5mmといった細かな単位で術中に微調整が可能となるため、これまで術者の経験にゆだねられていた様々な点をロボットがアシストすることによって、低侵襲で合併症リスクの少ない手術を目指すことが可能になります。患者さんにより安全な手術を提供することができます。

当院では保険適用で ROSA®支援下手術を受けることができます。

【今日の整形外科治療指針】

井樋、信田、日下部はその領域の臨床経験が豊富かつ最前線で指導的立場にあるため、これまでの整形外科医療の進歩を踏まえたうえで up-to-date で実践に即した「今日の整形外科治療指針(第8版)」を分担執筆しています。当科では現時点における最良の治療を提供することができます。



【東北労災病院整形外科談話会】

当科では「東北労災病院整形外科談話会」を開催しております。会場参加が可能になれば症例検討会も行いますので、お気軽にご参加いただけますと幸いです。

【ご紹介いただく際の留意事項】

当科への患者さんのご紹介は地域医療連携センターを通していただければ円滑に進みますが、手続きが面倒な場合や緊急性の高い患者の場合は直接**整形外科外来(022-275-1111(代)から整形外科外来へ)直接ご連絡**いただければ、可能な限り対応させていただきます。また、**脊椎外科予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

救急科

救急科部長・外科第二部長 赤田 昌紀

【特色】

当院では“断らない救急”を目標に仙台市北部地域や当院かかりつけ患者が遠方に搬送されることなく、地域内で医療が完結できることを目標にしております。年々救急車の受け入れは増えており、現在は年間4000台程度で推移しています。当院では半ER型の救急外来システムをとり、院内各診療科及び東北大学救急医学教室、東北薬科大学救急医学教室の協力も得て24時間体制で救急車を受け入れられるよう体制を整備しております。月～水及び隔週金曜日の8:15-17:00は救急科部長(兼)第二外科部長 赤田昌紀、木曜日は東北医科薬科大学から、隔週金曜日は東北大学から派遣の救急専門医が救急外来を担当します。夜間、休日は内科系、外科系医師各1名、臨床研修医2名の計4名で救急対応を行います。

当院救急外来では救急車で搬送された患者の初期対応を行い、バイタルサインを安定させる事に注力しつつ、並行して診断を進め適切な診療科に引き継いで、継続した治療が出来るよう努めてまいります。基本的には救急車の受け入れのみとなりますが、院内発症の重症者、敗血症、外傷、中毒などは救急科が担当で入院治療を行うこともあります。あらゆる疾患に対応できるように病院体制の整備を進めているところではありますが、常勤医不在の診療科もあり、当院において応受することの出来ない疾患、病態もあり、以下に記します。

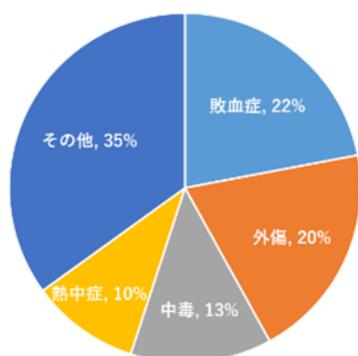
【対応できない疾患・病態】

重症熱傷 四肢切断 婦人科疾患 特殊感染症 中枢神経感染症 血管系病変(大動脈解離、SMA塞栓等)

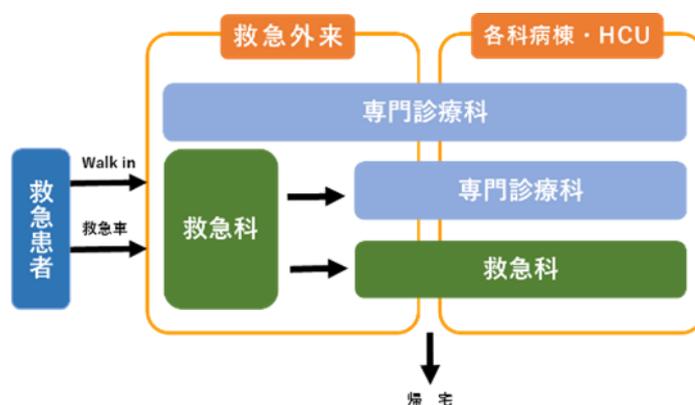
【ご紹介いただく際の留意事項】

当院に救急搬送される際には、まず担当診療科までご一報頂けましたら幸いです。

救急科入院患者の内訳



当院の救急システム 半ER型



小児科

副院長・小児科部長 千葉 靖

部長 高柳 玲子、沼田 美香

【特色】

こどもが小児科受診、あるいは入院を必要とする原因の多くは感染症とその関連疾患です。東北労災病院小児科は、**常勤医師の 3 名全員が小児感染症学会認定医の資格を有しており、感染症の診断と治療を重点に**日常診療を行っています。細菌検査室の協力により、できる限り当日～数日以内に病原診断を行うことで速やかに治療方針の決定がなされるよう努め、綿密なディスカッションを繰り返しながら、個々に適切な診療を行うことを心がけています。さらに耳鼻咽喉科など他科との連携のもと、合併症の早期発見・早期治療にも力を入れています。

一方、常勤医の 1 名が日本腎臓学会専門医であることから、**血尿・蛋白尿等の尿異常、尿路感染症、夜尿症等の小児腎尿路疾患の診断・治療**も、当科のもうひとつの柱となっています。**仙台市より、3 歳児検尿二次精密検査施設(腎臓専門医療機関)の指定を受けて**おり、市内のクリニックでの一次精密検査の結果陽性となった児をご紹介いただくことで、先天性・遺伝性腎疾患など慢性腎臓病ハイリスク児の発見に努めています。

いま小児医療は、疾病対応から健康支援への大きなパラダイムシフトの時期を迎えています。当科は高度少子化時代の到来を見据え、こどもの健康と疾病予防をサポートすべく**乳幼児健診に対しても積極的に取り組んで**います。併せて行っている**育児相談、栄養指導、予防接種**もたいへん好評をいただいております。皆様のご期待に沿える小児科を目指しておりますので、ぜひ当科への紹介をご考慮いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

【主な疾患】

小児感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、耳鼻科・皮膚科領域と関連した感染症、小児腎疾患、腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、先天性腎尿路異常、夜尿症、小児気管支喘息(発作時の治療及び長期的な治療)

【ご紹介いただく際の留意事項】

当科にご紹介をお考えの際は、**まずお電話でご相談いただければ**幸いです。なお現在、発熱等の急性期症状がある場合は、病院北側(第一駐車場内)に設置中の「発熱者専用入口」から小児科隔離室へ直接ご案内しております。また小児科専用の「問診票」を用意し、なるべく病院到着までにご記入を完了いただくようお願いしています。なおご紹介の際、診療情報提供書をご家族にお渡しいただくのと同時に、地域医療連携センターに FAX を送信いただきますと、ご到着までに電子カルテ ID を取得の上、病状に応じ速やかに診療を開始することができます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

泌尿器科 完全予約制

泌尿器科部長 阿部 優子

副部長 櫻田 祐／医師 荒川 洋介

【特色】

泌尿器科は腎、尿管、膀胱、男性生殖器を治療対象として、感染症、腫瘍、外傷、排尿障害などの機能障害の診断から治療までを一貫して行う科です。

悪性腫瘍は腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍などがあり、手術・化学療法・緩和治療を行っております。腎癌や尿路上皮癌については手術不能例や化学療法無効例に対し分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬といった新しい薬物治療が適応となり、治療を受ける患者さんの数は増加しております。従来の抗癌剤の化学療法とは違った種々の副作用の発現があり、総合病院のメリットを生かし、各科にコンサルトして副作用対策を行っております。

近年、患者さんにもよく知られてきた過活動膀胱に対しては、行動療法、薬物治療の他、難治例に対しボトックス療法(ボツリヌス毒素の膀胱壁注入療法)が保険認可され、当院でも治療数が増加しております。また、畜尿時の痛みを特徴とする間質性膀胱炎の診断、水圧拡張術、ジムソ膀胱内注入療法も行っております。

高齢、認知機能障害のある入院患者さんについては、治療だけでなく退院後の生活についても、家族、ケアマネージャー、かかりつけの医療機関等と協力し対応に取り組んでおります。

2023 年度からは常勤3名、非常勤1名の医師で診療にあたっております。常勤医師が減ったこともあり、外来は完全予約制とさせていただきますが、これまでの新患予約枠は週4枠から週10枠に増加し対応させていただきますいております。さらに救急対応が必要な方については、その都度、ご連絡いただければ可能な範囲で診療させていただきますと思います。

ご迷惑おかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

- 悪性腫瘍:膀胱癌、腎盂・尿管癌、腎癌、前立腺癌、精巣腫瘍など
- 良性腫瘍:前立腺肥大症など
- 神経因性膀胱:脊髄損傷、脳血管障害、骨盤内手術後遺症、糖尿病性神経因性膀胱など
- 中毒疹(薬疹を含む)
- 女性泌尿器科疾患:尿失禁、膀胱脱、性器脱など夜尿症
- 尿路損傷:尿道損傷、腎損傷、膀胱損傷など
- 尿路・精路の感染症:膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎など
- 結石:腎、尿管、膀胱結石

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

皮膚科 完全予約制

皮膚科部長 谷田 宗男

医師 瀬川 優里恵

【特色】

皮膚疾患全般を幅広く取り扱っています。患者の皆さんには日本の現代皮膚科の標準治療をします。その上で皆さんの意志や日常生活における満足度を尊重した治療方針の選択を常に心がけます。当院は急性期の疾患を扱うことを主としており、症状が落ち着いた場合には紹介元の病院に逆紹介をしたり、信頼できる開業医の先生に今後の加療をお願いすることがありますので、診察時にご相談ください。

- 外来通院加療のみならず、適宜入院加療を行っています。
- **紫外線療法(Narrow-band UVB 療法)**を行っています。
- 自費診療として**男性型脱毛症の内服治療**も扱っています。
- **尋常性乾癬、掌跖膿疱症、化膿性汗腺炎、壊疽性膿皮症に対する生物学的製剤使用承認施設**です。
- **アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤の治療**も当院で受けられます。
- 労災疾病等 13 分野研究・開発、普及事業の一環として**職業性皮膚炎(お仕事でお使いの物質による手あれや皮膚炎)の診療を積極的に行っています**。特に手あれを起こしやすい理・美容師の皆様を対象とした手あれ予防のガイドブックを作成しました。労災疾病等医学研究普及サイトからご覧になれます。

理・美容師の手あれ予防ガイドブックはこちら→



主な検査・医療機器

全身型紫外線照射装置:8 面からくまなく光線を照射する装置で乾癬や難治性皮膚炎の治療に使用します。ナローバンド UVB と UVA があります。

【対応できない疾患・病態】

各種レーザー治療、美容皮膚科、ケミカルピーリング、ピアッシング、爪のワイヤー療法、腋臭症手術、多汗症の外科治療、褥瘡の外科的手術療法、ケロイドの手術療法などは行っておりませんが、このような場合は適切な他の機関へ紹介させていただいております。また悪性黒色腫の治療は東北大学病院皮膚科に紹介しております。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。他院からの紹介や新患人数が非常に多く、予約患者人数が飽和状態になっております。そのため予約時間になりましてもお待ち時間が長くなっており、大変申し訳ありません。

【再来受診の留意事項】

皮膚科外来受診は午前中のみで、午後は手術や検査などのため、予約のための再来は行っていません。

予約外受付は平日 8 時 15 分から 10 時までになっており予約の方が優先のため待ち時間が長くなります。

電話での予約は行っておらず、診察の時に次回の予約をとるシステムになっております。

予約をお持ちの方で都合が悪くなり変更を希望する場合は、平日午後3時～午後4時 30 分までに皮膚科外来(022-275-1111(代)から皮膚科外来)にお電話をいただけますと変更が可能です。

眼科

眼科部長 植松 恵

医師 武田 瑤子

【特色】

いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。当科の特徴としては、**白内障手術とメディカル網膜の診療**があげられます。白内障手術は**昨年より日帰り手術も開始し、日帰りか入院かを選べるようになりました**。入院の場合は、局所麻酔は1泊2日、全身麻酔は2泊3日入院です。全身疾患をお持ちの方も他科と連携して対応しておりますので、是非ご紹介下さい。

メディカル網膜の診療については、東北大から網膜専門医の応援も頂きながら、**加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などに対応**しております。当院は糖尿病・代謝内科があることから糖尿病網膜症の方が多いのが特徴です。

抗 VEGF 製剤の硝子体注射、網膜光凝固術などを組み合わせて最善の治療を目指しております。手術適応のある方はすみやかに東北大学病院へご紹介させて頂いております。

設備としては、FA/IA が可能な眼底カメラ、眼底 OCT、OCTA、ヘスチャート、ハンフリーフィールドアナライザー、ゴールドマン視野検査、パターン照射可能なマルチカラーレーザー光凝固装置、YAG レーザー、ERG(setERG,mulifocalERG も可能)、波面センサー(KW-1W)、フレアセルメーターなどの機器もそろっておりますので、幅広く対応可能です。

当科外来は予約制となっております。地域医療連携センターを通じて初診予約をおとり頂きますと、待ち時間も少なくなりますので、是非ご活用下さい。緊急の際は電話でご相談頂ければ適宜判断させて頂きます。スムーズな診療のため、ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

今後も地域の中核病院として役割を果たしていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

白内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症

【診療実績】

	2022年
水晶体再建術	537

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 渡邊 健一／部長 織田 潔

医師 清水 佑一、小笠原 真理、佐藤 悠歩

【特色】

耳鼻咽喉科医 5 名(専門医 3 名うち指導医 2 名)で、耳鼻咽喉科の全領域を対象とした診療を行っています。COVID19 パンデミック下で約 3 年間、耳鼻咽喉科診療に大きな影響がありましたが、現在は世の中の with コロナ、after コロナの動きとともに、われわれの診療も徐々に以前と同様にもどりつつあります。

当科の診療内容ですが

- ①特に力を入れているのが**耳疾患**の治療です。**慢性中耳炎に伴った難聴の聴力改善手術**や**真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術**の症例が多く、最近**低侵襲な耳内視鏡下手術(TEES)**の適応も拡大してきており、良い治療成績をあげています。**重度の難聴に対しては人工内耳手術**を積極的に行い、東北地方では最大の症例数となっています。言語聴覚士2名が専任で人工内耳リハビリテーションに携わっています。
- ②**鼻疾患**においては 4K 内視鏡のクリアな術野のもと**精密で安全な鼻内視鏡下手術**を遂行しています。増加しつつある**指定難病の好酸球性副鼻腔炎**の手術治療も積極的に行っており、内科的治療も含め患者さんの QOL を上げるような治療を心掛けています。
- ③**喉頭疾患**として、**早期喉頭癌手術(CO2 レーザーを用いた鏡視下喉頭悪性腫瘍切除)**や音声障害を改善する**音声外科手術(喉頭微細手術、喉頭枠組み手術)**を行っています。
- ④**顔面神経麻痺**の治療はステロイド治療を主とした早期介入が必要です。リハビリテーション科とも協力して後遺症の軽減に取り組んでいます。
- ⑤**唾液腺、甲状腺、頸嚢胞**といった頸部手術の経験も豊富です。

【主な疾患】

慢性中耳炎、難聴、好酸球性副鼻腔炎、早期喉頭癌、顔面神経麻痺

【診療実績】

	2022年
口蓋扁桃摘出術	123
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	73
鼓膜・鼓室形成術	57
鼻腔形態手術(鼻中隔、下鼻甲介)	41
喉頭微細手術(悪性腫瘍含む)	18
耳下腺腫瘍摘出術	17
顔面神経減荷手術	11
人工内耳手術	7

【ご紹介いただく際の留意事項】

当院の地域医療連携センターを通じた**外来予約枠は火・水・木曜日にあります**ので、是非ご活用いただきたいです。当日でも紹介状を持参していただいた場合は、待ち時間はご容赦いただいた上で対応いたします。

リハビリテーション科 完全予約制

リハビリテーション科部長 原田 卓／部長 安達 理

【特色】

労災病院のリハビリテーションは、**脊髄損傷**などに代表されるような、労働災害で障害を負った患者さんのリハビリの長い歴史があります。よって経験豊富なリハビリスタッフと充実した設備を保有しています。また当院は東北でも有数の整形外科の基幹病院で、**スポーツ整形、脊椎外科、関節外科**など充実しており、**そのリハビリ**が行われています。脳血管疾患も脳神経外科医師1名体制で、**脳卒中のリハビリ**を行っております。

外科手術後の患者さんに対しても**早期離床・早期退院に貢献するリハビリ**や、内科・外科の重症患者さんの**廃用症候群の予防や回復を図るリハビリ**を行っています。

特に循環器疾患に関しましては、心臓リハビリ指導士 3 名の体制で、**心大血管術後の特に合併症のある方の入院リハビリ**や、**狭心症・心筋梗塞・心不全の再発予防を図る外来通院リハビリ**などを行っています。循環器疾患患者さんのリハビリでは、可能な方には心肺運動負荷試験を行い、科学的評価に基づいた安全なリハビリの実践に努めています。外来心臓リハビリ前にリハ医が必ず診察し、リハビリ施行前の状態を確認してから行っています。

また、がん拠点病院として、担癌患者さんのリハビリにも努めております。特に**乳がん患者さんのリンパ浮腫や拘縮の予防・治療のリハビリ**などを積極的に行っていきます。

加えて、高齢化によって誤嚥性肺炎の疑われる患者さんの嚥下の評価(嚥下造影など)や訓練も需要も増しており、科によらず誤嚥が疑われる患者さん、ならびに誤嚥性肺炎の患者さんの**嚥下リハビリも積極的に取り組んで**おります。

2022 年からは、耳鼻咽喉科の先生方と協力し、**顔面神経麻痺のリハビリテーション(入院・外来)**も新たに開始いたしました。

加えて、人工透析中の**腎臓リハビリテーション(外来)**も開始しております。

【主な疾患】(リハビリ対象疾患、以下疾患に対応)

- 脳卒中、脊髄損傷などの脳神経系疾患(急性期から回復期まで、Botox 治療も施行)
- 関節筋疾患(切断、義手・義足、装具など、筋電電動義手も対応)
- 心大血管疾患(心筋梗塞後、心不全、心大血管手術後、特に術後の脊髄梗塞など多数経験)
- 呼吸器疾患(COPD など)
- がん患者さんのリハビリ(乳癌術後リンパ浮腫や緩和的リハビリも含む)
- 廃用症候群(救急疾患や外科手術後など急性期病変後)
- 嚥下障害のリハビリ(嚥下造影)

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。**臨床経過、リハビリ経過、現在の ADL、画像データ(CD)**など送っていただくと助かります。当科ホームページから専用の申し込み用紙をダウンロード可能です。よろしければ、ご利用ください。脳卒中連携パス、スマイルネットも使用可能です。

放射線治療科 完全予約制

放射線治療科部長 田邊 隆哉

【特色】

当科では標準的な放射線治療を Elekta 社のリニアック Versa HD を用いて三次元原体照射で行っております。

声門癌、肺癌、食道癌、肝臓癌、膀胱癌、前立腺癌、皮膚癌等の根治的放射線治療を、化学療法併用の場合は各臓器の主治医科のご協力のもと行っております。**肺癌や肝臓癌では体幹部定位放射線治療も可能**です。(肝臓癌の定位照射はマーカー埋込なしでも透視で位置照合可能な場合に限りです。)外科的治療の補助療法として、直腸癌術前照射、乳癌術後予防照射、食道癌内視鏡治療後の予防照射等も行っております。悪性リンパ腫や骨髄腫に関しては化学療法後の地固め、もしくは残存病変への補助的放射線治療、限局期低悪性度の NHL や孤立性の形質細胞腫等は根治照射を行っております。

症例によっては強度変調放射線治療(*1)が望ましい場合もあり、また当院で困難な定位放射線治療(*2)もあり、その様な症例は東北大学病院などへご紹介しております。

脳転移、骨転移、上大静脈症候群への緩和照射は緊急性の高い症例もございますが、当院では**比較的早期に開始できる体制**にございます。

良性疾患の放射線療法も、甲状腺眼症やケロイド(術後再発予防もしくは単独放射線治療)などで実施可能です。

X線外照射以外では、**ラジウム 223 内用療法**を行っております。去勢抵抗性前立腺癌の骨転移症例に対して全生存期間や骨関連事象発現までの期間を延長させる効果が見込まれる治療です。

上記疾患以外にも、根治的治療、緩和的治療を問わずなるべく対応したいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

*1 残念ながら当院では未だ導入されていません

*2 特に転移性脳腫瘍や肝臓癌

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。**予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。**

歯科 完全予約制

歯科部長・口腔ケアセンター長 永井 浩美

医師 塚田 甲

【特色】

地域診療所の先生におかれましては、日頃のご協力をいただき誠にありがとうございます。当科での診療状況をご案内申し上げます。

歯科外来は、月曜日から金曜日まで午前、午後とも診療しています。常勤歯科医 2 名、歯科衛生士2名の体制で対応しています。外来新患および再来は、外傷などの救急対応以外は完全予約制で、初めて外来を受診される場合はかかりつけ歯科医院からの紹介状が必要となります。詳しくは当院地域医療連携センターにお問い合わせ下さい。

当院で治療する**がん患者さんの周術期口腔機能管理、入院患者さんの急を要する歯科治療**および地域の先生方からご依頼をいただきました**口腔外科領域の治療**を行っています。退院後の患者さんにつきましては原則的にかかりつけ歯科へ診療をお願いしております。周術期口腔機能管理では、全身麻酔下で行うがん手術の前後や化学療法中における口腔衛生および機能の管理を行っています。また、口腔外科領域で診療している疾患は、主に**抜歯(通常の抜歯、全身疾患を持っている患者さんの抜歯、埋伏歯の抜歯など)、外傷、顎関節症、歯根嚢胞などの手術、口腔粘膜疾患**などです。入院での対応も可能です。当科の診療は、地域診療所の先生方皆様との連携が欠かせないものとなっています。当科よりご依頼申し上げました患者さんにつきましての不明な点、当科での対応が再び必要になった際のお問い合わせ、ご依頼も随時受け付けております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。受診には紹介が必要とさせていただき、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

産婦人科 完全予約制

【特色】

2021年4月から月、水、木の週3回の外来診療を行っています。水曜日は東北大学産婦人科の医師が担当しています。**新患は水曜日は午前、月曜日と木曜日は午後**に受付しています。新患受付時間が異なりますので、御紹介の際は予約を入れていただくとありがたいです。

月経困難症、更年期障害、子宮がん検診の2次検診、骨盤臓器脱などを主に診療しています。

現在は産婦人科の手術を行っていませんが、泌尿器科で骨盤臓器脱の手術をしていただいていますので、子宮脱や膀胱瘤等の骨盤臓器脱は泌尿器科にも相談のうえ治療を行っています。子宮筋腫や卵巣腫瘍などの経過観察中に手術が必要になった場合には、手術可能な施設へ紹介しております。

分娩を取り扱っていませんので、原則として妊婦健診は行っておりません。

また、不妊症関係も諸設備が十分整っておりませんので、排卵誘発までの治療となっています。診療が縮小して御迷惑をおかけいたしておりますが、今後ともよろしく願い申し上げます。

【主な疾患】

月経困難症、更年期障害、子宮がん検診の2次検診、骨盤臓器脱など

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

健康診断部

健康診断部長 長澤 美穂

医師 今岡 洋一

【特色】

健康診断部は、2名の医師で担当しています。

特定健診、定期・雇い入れなどの一般健診、生活習慣病予防健診、人間ドック、特殊健診など様々な健診を行っています。人間ドックでの上部消化管の検査は透視ではなく、最初から内視鏡で対応しています。また、泊りがけで行う一泊ドックではオプション検査として**大腸内視鏡検査が可能**であり、治療就労両立支援センターにおいて**生活・運動・栄養指導を受けることができる**点など総合病院ならではのコースが設定されています。さらに、特殊健診として**じん肺、石綿、電離放射線、高気圧障害、振動障害、有機溶剤、VDT**など職業に関連した健診も行っています。

予防医学の面から皆様のお役に立てるよう診療を行っております。よろしくお願いいたします。

病理診断科

病理診断科副部長 中山 文恵

【特色】

当科では**組織診や細胞診、剖検に加え、術中迅速診断を積極的に行って**おります。病理診断は治療方針の決定や治療効果の判定にしばしば重要な役割を持つため各診療科との連携が必須であり、各科と積極的に関わりつつ、診断や治療方針に関する意見交換を行うよう心掛けています。また、悪性腫瘍の病理組織・細胞検体を用いたコンパニオン診断やゲノム診断に対応するため、質の高い病理組織検体を提供できるよう日本病理学会の取扱い規定に準拠して標本を作製しています。診断困難例では東北大学病理部をはじめ外部施設へのコンサルテーションを行うことで診断精度を高める努力をしています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。